

一ノ鳥居

一ノ鳥居は、若宮大路に沿う鶴岡八幡宮の表参道の開始地点を示しています。海岸から約 500 メートルの所で通りをまたいでおり、高さは 8.5 メートルあります。この通り沿いには 3 つの鳥居があり、一ノ鳥居はその中で最大のもので、伝説によると、この石の鳥居は将軍の徳川秀忠（1579-1632）の妻であった江与（お江与とも、1573-1626）が主導して作られたものです。八幡が彼女に現れ、大きな鳥居を作れば息子に恵まれると約束したとのこと。江与とその夫は、遠い備前国（現在の岡山県）から高品質の花崗岩を取り寄せました。しかし、鎌倉まで船で石を運んで鳥居を立てるのは極めて時間のかかる作業でした。江与は息子に恵まれました。息子の家光（1604-1651）は父親の後を継いで 3 代将軍となりました。しかし鳥居が完成したのは、秀忠と江与の孫である徳川家綱（1641-1680）が将軍となっていた 1668 年のことです。この鳥居は国の重要文化財に指定されています。